

平成30年度 第1回 総合教育会議 議事録

1 日時 平成31年1月25日(金) 午前10時00分から午前11時00分

2 場所 役場庁舎分館2階第1会議室

3 構成員

長南町 町長 平野 貞夫

長南町教育委員会

教育長 小高 憲二

教育長職務代理者 風戸 正敏

教育委員 中村 尚子

教育委員 金木 武信

教育委員 星野 悟

4 事務局等

教育委員会

学校教育課長 川野 博文

学校教育課主幹 佐藤 功

生涯学習課長 三十尾 成弘

開会

<川野課長>

ただ今から平成30年度第1回総合教育会議を開催いたします。はじめに町長挨拶、よろしく願いいたします。

町長あいさつ

<平野町長>

改めまして、おはようございます。

開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

日頃、教育委員の皆様方には町教育行政に特段のお力添えをいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。本会議は、町長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本町教育の課題及び目指す姿等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的に教育行政を推進していくための会議でございます。本日は、平成31年度の教育の方針等について、教育長より説明がありますが、それに対する意見交換やご協議いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。ごくろうさまです。

<川野課長>

3、議事に入らせていただきますが、本要綱に基づきまして、町長に議長をお願いいたします。

<平野町長>

それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。まず、1の「2018年度教育の点検・評価」から説明をお願いします。

<小高教育長>

おはようございます。それでは私の方からしばらく時間をいただいて説明させていただきます。

今年で2年終わるわけですが、12月末現在で各学校から挙げてもらったことについて整理してあります。

1-1-(2)、学力関係ですが、テストは全国学力・学習状況調査と千葉県標準学力検査がありまして、それを指標にしたいと考えています。小中学校とも国語、算数(数学)が毎年あって、3年に1度、理科がありまして、今年は理科が入っています。今年の全国学力・学習状況調査は、千葉県は全国平均にいなかったという状況があります。本町の小学校についても残念ながら0/5ということで平均点に届かなかったということです。これは次年度以降の課題になると考えています。中学校については全て上回っているということで、力をつけてもらっていると思っております。その下の「読む・書く」「計算」については、標準学力検査については小中学校ともに県平均を上回っておりますので、力が評価できると思います。今後、全国調査でもう少し上げていくことが本町の3年目の課題だと考えています。

I-1-(3)ですが、ALTについては全学級で活用しております。特にリーダーシップをどちらがとれるかという問題で、ALTに使われない教師になれる力をつけていきたいと考えています。英検3級合格者を中3で半分以上にしたいということで考えましたが、現在60%です。これをもっと上げていければいいなと思っております。

I-1-(5)の特別支援教育です。今の学校教育の中で、特別な支援を要する子どもたちの扱い、対応が大きな課題になっていますが、これをどのような校内体制で進めていくのかを校内委員会の開催回数で評価しようとするものです。各学校ともこのくらいやってくれ

ているということです。いじめの解消率は100%ですが、これは見えない部分なので気を抜くことはできないと捉えています。大きな課題は不登校の問題です。欠席30日以上の子どもが小中ともにこの割合ですが、カウントの仕方も学校に来れば出席としているため、現実的には「学校に登校し、教室できちんと勉強することができない子ども」は他に多くいると捉えています。

2頁の体力テストですが、中学校はちょっと低いといっていました、それほど心配はしていません。

Ⅲ-1-(2)の学校公開ですが、指導を皆さんに見ていただき、それを検証、評価してもらう場としての学校公開をお願いしています。6回、3回ということで、それぞれよくやってくれています。小学校は明日も「ふるさと学習発表会」を行う予定になっています。これももっと充実させていきたいと考えています。

Ⅳ-2-(1)のICT機器ですが、本町では小学校で1人1台のタブレットをいただいているので、これをどう活用していくかが課題ですが、おかげさまで小学校は本当によく使ってくれていますし、先生方の指導技術についても、他に負けないものを持っていると思っています。中学校についてはコンピュータ室に行かないとできないということもあり、日常性をつくるのが難しいと考えています。

V-1-(2)のボランティアの数ですが、たぶんもっと多いのではないかと思います。学校の中にいろいろな人たちに入っただいて見てもらうとともに、先生方の忙しさを解消する意味での外部人材の導入を今後とも推進していきたいと考えています。

あと、公民館等についてはそこに書いてあるとおりです。

<星野委員>

前にもお話しさせてもらいましたが、ICTの活用にあたって、子どもたちの目の病気が心配です。PC用メガネの着用は難しいのでしょうか。

<佐藤主幹>

特に考えてはいません。

<星野委員>

アメリカ等では若年層からの目の疾患が問題になっているので、予算等もあると思います。考えていただけるとありがたいです。

<小高教育長>

そこは今後、保護者等も含めての課題としていただいております。

<中村委員>

英語検定について、保護者や小学校の先生方から言われているのですが、町のご厚意で漢

字検定を無料で受けられるようになっていますが、小学校の高学年からは英語検定に振り替えてもらうことは検討していただけますか。

<佐藤主幹>

本年度からは少しずつ変更していて、中学校では今日英語検定を行っていますが、これは町の「キラリ輝く長南っ子事業」として実施しています。小学校は現在は漢検のみですが、学校の方針等で移行していくことは可能です。

<金木委員>

「校内特別支援委員会」ですが、多く実施されているようで喜ばしいのですが、構成メンバーはどうなっているのでしょうか。

<佐藤主幹>

特別な支援を要するお子さんへの指導方針や指導方法の共通理解の場となる会議です。具体的に聞いたわけではないのですが、一般的には毎月1回、校長、教頭、教務主任、特別支援教育コーディネーターと各学年1名程度が出席して行います。

<平野町長>

不登校の児童生徒が数名いるということですが、こういうお子さんはどこで学習するのですか。

<小高教育長>

完全に登校できなかったお子さんでも、現在では別室で学習したりできるようになったり、茂原市の適応指導教室に通級したりするお子さんもおります。ただ、実質的な学習が十分にできていないところにこの問題の大きさがあると思っています。今回、中学校の不登校だった生徒については高等学校に行くということで対応しているようですが、学力がきちんと身についているかどうかというところが問題です。何とか来られる子どもについては学校でも校外でもそれなりの体制をとれますが、こちらから行くというのは厳しいです。

<平野町長>

それでは2番目の内容をお願いします。

<小高教育長>

来年度の子どもたちの数ですが、平成31年度は小学校が232名で、1年生が1クラスという状況です。今後も220名くらいで推移していくと考えています。

中学校については151名で、小・中合わせて383名になり、昨年比マイナス29となります。

本町では特別支援学級の子が多いと感じています。小学校では知的学級が1、情緒学級が2の3学級展開で、中学校は知的、情緒ともに1クラスとなっています。

5頁から進めていきますが、平成31年度につきましてはそこに3つの課題を挙げております。「統合に伴う落ち着いた安定的な学校づくり」、「教師が子ども一人一人とじっくり接する時間の確保」、「学力の充実」です。重点的には5か年計画の3年目の推進ということで、長南プランの具体化を挙げてあります。また、一貫教育の中で、小中教員の交流をもう少し進めていきたいと考えています。

「特別支援教育の充実」では、支援員を一人増やしていただきたいと要望し、町長さんからはご理解いただいています。そして、「教育推進のシステム化」では、コミュニティ・スクールの指定をして、新しい組織でがんばっていききたいと考えています。

「特色ある長南町教育の具体化」の3つの大きな中身は、1つめは「学力の充実」、2つ目は「人づくり教育の推進」で、長南が大好きな子どもをふるさと学習を充実させて育てていきたいということ。3つ目は「長南プラン」の中身なのですが、特色あるカリキュラムを長南独自の教育というもので具体化していききたいと考えています。「土曜塾」は懸案でなかなか実現できなかったのですが、来年度からやっていくことで、今準備を進めています。

3のところで「どんな教育を進めていくのか」ということですが、一つは、地域の教育課題に貢献できる学校にしなくてはならないだろうということ。また、「個性あるカリキュラム」をもう少し進めていききたいと考えています。小学校においては、学校と教育行政の役割分担をしていきます。学校はカリキュラムを整理し、教科横断的に指導する授業づくりを学校には要求しています。教育行政についてはそれらができる環境整備というものを考えています。各種支援員の導入等です。いずれにしても教師がゆとりを持って子どもと関われる時間をつくってやるためのサポーターとして、あるいはリーダーシップをとっていける指導行政でありたいと思っています。

コミュニティ・スクールについての大きなねらいは学校組織の活性化ということで、外部人材に入ってもらうことで「楽にやれる」という部分と刺激をもらうという部分をねらっています。

人事異動では、若い職員が多く、講師等指導力がやや弱いという気がしていますので、力のある教師をどう確保できるかがこれからの詰めになるかと思えます。

13頁をお願いします。「コミュニティ・スクール」というシステムを長南町も取り入れたいと考えています。基本的には学校支援の組織として考えており、文科省の出している方向とはちょっと違うニュアンスで捉えています。

コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置している学校のことで、地域の代表か

らなる組織と学校がともに教育を進めるシステムです。文科省は「地域とともにある学校づくり」をメインにしていますが、うちは「教育の充実」を優先的に考えています。このために、昨年度から「インストラクター」「コーディネーター」というものを導入してその準備と機能化を図ってきました。

学校は、校長が経営方針等について説明し、運営協議会のメンバーからいろいろな意見をいただく中で、多少修正しながら当該年度の教育を進めるというシステムです。そして、運営協議会の決定によって「学校支援本部」をつくるのですが、ここは学校の要求に応じてどういう学校支援ができるかを協議し、具体的にスタッフを送ってもらうというところなんです。うちの方では、教育支援、環境整備、「郷育」推進の3つの部分を設けてあります。このスタッフをコーディネーターが調整して集めたり派遣したりします。ここがうまくいかない地域もあるようですが、本町の場合は本年度からの「コーディネーター」が機能していると思っています。

5の学校運営協議会のメンバーですが、今のところ16人を考えています。支援本部の人たちとの関わりにもなるのですが、この人たちの意見をもらいながら、校長先生・学校が連携をとりながら方向性を協議し、年度末には評価をしてもらうというシステムです。まあ、できるだけ支援本部の方の組織を充実させてあげて、学校を忙しさから開放してあげたいという思いです。今のところ運営協議会は3回くらいを考えています。

17頁は活動をもう少し具体的に示したものです。学校運営協議会と教育委員会、学校とがどういう関わりになっているかということです。18頁が支援ボランティアの今の活動内容で、19、20頁は実際の支援ボランティアのリストになります。細かいところまでボランティアさんが入ってくれているので、これらをうまく組織化して機能させていきたいと考えています。

<平野町長>

ただいまの説明に対して何かご意見ございますか。

<小高教育長>

まだ粗刷り原稿の段階で完成していませんが、31年度はこれを各家庭にお配りして、ご理解いただこうかと考えています。

<平野町長>

小中一貫型校ということですが、施設の共用についてはうまくいっているんですね。先生方同士の関係なども…。

<小高教育長>

これまで一番苦勞してきたのが、小、中学校の教員の意識や実務的な部分をどう一つにで

きるかというところです。それをより一歩進めるのが来年度の課題だと思っています。

<佐藤主幹>

昨年度スタート時は施設の使用がかぶったりしたこともありましたが、現在は前年度に教務主任が連絡を取り合って調整を図っています。今日なども明日の「ふるさと学習発表会」に向けて体育館は1日小学校が使用するというので連携がとれているようですので、問題は無くなってきていると思います。

<平野町長>

中村委員さん、何か意見ありますか。

<中村委員>

私は民生委員を始めて23年になるのですが、3月くらいになると茂原市に引っ越したいとかいう人たちもいて、少ない人数の中でクラス全員集まっても野球もサッカーもできないというところで教育を受けさせたくないということでした。でも一通り出て行ってしまった感じで、今残っている人たちはそこに意義を感じている人たちです。ちはら台とかは教室が足りなくらい増えているということで、地域格差を埋めるというのが難しいです。長南町は子育て支援がすごく充実していて、行政のサービスはこれ以上できないんじゃないかというくらいです。どうしたら新しい人たちがこの町に来てくれるのか、部活にゴルフ部をつくる等何か特色あるものを持たないといけないのではないか、この本当にいい町を全国に発信していく必要があると思います。

<平野町長>

子育て支援を充実すればするほど少子化が進んでいくというのは、よくわからないですよ。まあ、これから少しずつ戻ってきてもらう町づくりをやっていきましょう。これからの町づくりについて、2月の広報の「ふれあい通信」に書いていますので、見ていただけたらと思います。住民の流出がひとまず止まったということで少し安心しましたが…。でも子どもたちの流出が止まったのは、小学校が統合したからなんですよ、もし統合していなければ、もっと流出していたと思いますよ。そういう意味では早めに統合してよかったなと思っています。

<小高教育長>

ここに、ダイナミックな一貫教育とか大集団のメリットとか書いたのですが、おかげさまで統合して子どもたちのエネルギーがものすごく喚起された、そしていろいろな子どもたちが相互に刺激し合う中で、それなりのいい評価が生まれているのではないかと思います。

また、もう一つは広報活動をしっかりしようという話を今していますので、このパンフを中心に本町の教育をもう少し外に出していきたいと考えています。

<平野町長>

どのような子育て支援があるか、知らない人も多いです。ですので、情報の出し方を考えて、町民の皆さんに理解してもらえるようにしたいと思います。

では、他に何かございますか。なければ「その他」で何かありますか。

<風戸職務代理者>

米満の住宅が完売しましたが、ああいう次につながるような企画はないでしょうかねえ。米満は結構おまわりさんがいて、そういう意味で安心感があるのでしょうか。

<平野町長>

長南町の良さを知って長南町に住んでくれている元豊栄駐在さんもいます。ただ、住宅の整備はお金がかかるので、行政としてやるのは厳しく、民間にお願いするしかないと思います。ですので、民間に興味を持ってもらえるような町づくりをしていくことが大切だと思ってやっています。

では、教育行政がスムーズに進められるように、設置者、首長としての役割がありますので、設備あるいは教育運営の予算については教育長、事務方としっかり議論しながら進めていきたいと思っていますので、教育委員の皆さんにはご支援をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、議事の方は済んだということで事務局の方にお返しします。いろいろとご協力ありがとうございました。

<川野課長>

ありがとうございました。以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。